

いっしょに行こまい！高校も！

写真チラシは、9月15日・16日に愛知県刈谷市で開催の「第13回障害児の高校進学を実現する全国交流集会 in あいち」案内。いっしょに行こまい高校も、様々な「障害」のある子・社会的「排除」にあう子の進学希望をかなえるのが、今回の全国交流集会の趣旨である。

15日の全体会講演は、文部科学省などで文部行政の第一線で活躍し、現在は京都造形芸術大学教授の寺脇研さん。寺脇さんの講演テーマは、「私が実現した高校の希望者全入～適格者主義の呪縛を超えて」。交流集会の趣旨にぴったりのテーマだ。テーマを見て、寺脇さんと前川喜平さんの共著『これからの日本、これからの教育』を思い出した。



前川「もともと、希望者全入という考えがあったんです。ところが昭和30年代後半あたりから、文部省の考え方が、適格者主義に変わっていきました。適格者主義というのは、一定の学力のある者しか高校には入れないとする考え方で、当時の状況をかんがみれば、仕方のない部分もあったかもしれません。というのも、当時は高校の数が限られていたため、入学定員を超える応募者数になってくると、選抜試験によって、ふるい落とさざるを得なくなりましたね。」

寺脇「それで言うと、私が広島県の教育長のとき、95年度県立高校入試から適格者主義をやめることにしたんです。高校の数はすでに足りていて、全員が入れるだけのキャパシティがあった。ところが、当時の高校入試は一発試験だったから、どうしても、そこで弾かれる子が出てきてしまう。だったら、希望者全員が高校に入れるよう、入学試験を3回に分けて実施すればいいということで、この方式を導入したわけですよ。……少子化で高校に空きができる時代にマッチしたやり方だったから、他の自治体でもこの考え方が取り入れられて、適格者主義を廃止する都道府県が増えていった。ただ、残念ながら広島県では、教育長が他の人に代わって、私と異なる考えの方だったようで、4年後にはもとのやり方に戻されてしまった。これは私も担当の政策課長としてかかわっていたんだけど、99年の中教審答申で、高校は「事実上すべての国民が学べる教育機関」であって、学ぶ意欲があれば入学を認めるべきだという方針を打ち出した。これで事実上、適格者主義を否定することになりました。」

全体会のあと、4つの分科会が予定されている。第1分科会「高校生になりたい！ なります！～地域の保育園・小学校・中学校で学んだその先に」、第2分科会「高校生に

なりました！～ ホンネの高校生活」、第3分科会「広がる卒業後の選択肢～人生の主人公は“わたし”」、第4分科会「「障害児だけではない」高校に行けない子どもたち～貧困・環境などの社会的「排除」により」。

たまたま私も集会にかかわることになり、企画準備の段階ですこし議論に参加した。大阪に移ってから議論に参加できなかつたが、全体会の司会を仰せつかることになった。そんな関係もあり、これからも集会を紹介していきたい。

(2018年5月24日)

2018年9月15日(土)海通AJU館5F(1F)164 AJU通称No.13027 総計54名(2月1日現在)開催地

第13回 障害児の高校進学を実現する全国交流集会 in あいち

いっしょに行こまい！高校も！

～様々な「障害」のある子・社会的「排除」にあう子の
進学希望をかなえるために～

久慈 矢空



絵：酒井 宏希

9月15日 全体会 講演 (9:15-11:40)

元文部科学省官報 寺脇 研 さん
京都造形芸術大学教授
私が実現した高校の希望者全入
～選考者主義の呪縛を超えて～

2018年9月15日(土) 受付 13:15～ 会場の様子で遅れることがあります
全体会・講演・分科会 13:30～17:50
交流会 18:30～20:30

16日(日) 分科会・全体会 9:15～11:40

参加費 3000円/2日・2000円/1日(介助者無料) 交流会 5000円
情報保障 手話通訳・要約筆記・ヒアリングルーフ(全体会) ※分科会等申込

アいちアールセンター アイリス 申込内函参照
愛知県刈谷市若松町2-104

主催 障害児の高校進学を実現する全国交流集会 in あいち実行委員会
共催 障害児を普通学校へ・全国連絡会
快援 名古屋市教育委員会(申請中) 愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市・刈谷市・刈谷市教育委員会
協力(申請中) 日本教職員組合・愛知公立高等学校教職員組合・愛知県・伊勢会・名古屋市立高等学校教職員組合
名古屋教員組合・愛知障害フォーラム